現 地 情 報

「小麦」から「もち麦*」へ!! 転作作物から地域特産物への転換

加東市では2018年産より小麦「シロガネコムギ」からもち麦「キラリモチ」への転換に取り組んだ。普及センターは、関係機関や食品メーカーと連携して、栽培特性などの把握と試作から開始し、集落営農組織に導入を呼びかけた。2020年産から全面転換し、栽培面積97haの加東市の地域特産物へと成長した。

実需者の思いに応えて

2017年、加東市に生産施設をもつ食品メーカーから集落営農組織に「国産もち麦が欲しい、是非作って欲しい」と働きかけがあった。

一方、2018年に水稲作付面積配分が廃止され、小麦栽培を続けるべきかと悩む集落営農組織があり、転作作物である小麦「シロガネコムギ」から地域特産物としてのもち麦「キラリモチ」への転換を勧めた。

取組内容全面転換への道のり

当初、もち麦の情報はほとんどなく、農林水産技術総合センターから、品種特性、栽培方法、種子確保手段についての情報を得た。

2018年９月、もち麦転換説明会では、①山田錦の田植え前に収穫できる、②小麦栽培技術を活かせ、③採種技術が市内にある、④食品メーカーが全量買い上げる、⑤加東市特産物の育成に貢献できる等の視点から説明し、もち麦生産の取組みを始めた。

2018年11月、もち麦の原種種子を農研機構から導入し、試作に取組み、集落営農組織への情報提供や現地研修会を開催することで、全面転換に向けて栽培意欲の向上を促した。

一方で、加東市に対しては、もち麦を加東市の特産物に位置づけ、継続的に支援する協議会の設立を提案した。2019年４月、副市長が代表となるもち麦活用協議会を立ち上げ、栽培支援、種子供給、特産PRの面から支援を行い、反収200kgを目指した。

その結果、栽培面積、生産量は図のとおり急増し、2020年産は約170t（反収180kg）確保できた。食品メーカーは加東市産を強調した商品パッケージで販売したり、生産ほ場にのぼりを立てPRした（写真）。

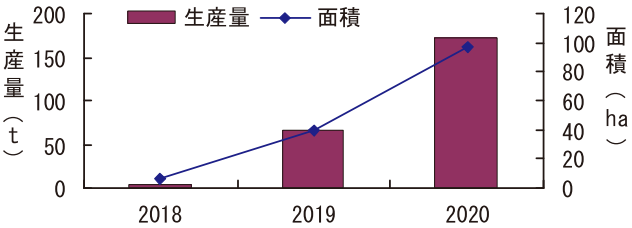

図　栽培面積と生産量の推移

＊もち麦･･･もち性の大麦、二条裸麦に分類

今後の方針

ある集落営農組織の代表者から「市の特産物になるなら力入れてやらなあかんな」という声が聞かれた。小麦栽培時にはなかった意識が生まれつつある。今後、加東市の特産物としての意識醸成を図り、集落営農組織の活性化や後継者育成につなげていきたい。

小多　善功（加西農業改良普及センター）
（問い合わせ先　電話：0790－47－1448）

写真　圃（ほ）場にのぼりを立てPR

ひょうごの農林水産技術　No.211（2020.11）　※本内容は、当センターホームページにも掲載
令和２年11月25日　兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）４７－２４０８

02農Ⓟ2-002 A4